

文芸欄



紅梅会(東灘区)
山笑う風が心耳捧げゆく
山笑う空と風とが遊泳す

梅苑句会(東灘区)
若葉もえもの思う日や空青し
穩やかな日本の空に桜舞う

篠原句会(灘区)
春雨に児を抱き走る若き母
卒業や位牌の父へ語りかけ

宝愛句らぶ(中央区)
北野坂ミモザが似合う坂の町
新造船就航待つや春の海

梅の美会(兵庫区)
老いてなお鮎子の列並び待つ
春色のトンネル潜り家路着く

高原ささゆり会(北区)
句歌集は名刺代わりに配られる
買いたくなるは川柳本

花山短歌会(北区)
暖かな日差しをあびて桜木の蕾みふくらむ
開くを待つか

個人
覚めては又浅きまどろみ繰り返す
思いは深き春暁の間

(灘) 上田 節子
(中) 水口 敏子

独り言多くなりけり五月雨
時計草いま何時かと問うてみる
青葉クラブ(北区)

花山会(北区)
雨一夜一気に開く黄水仙
好天を世情に籠り弥生尽

ひまわり句会(北区)
初夏祭風になぶられ疲れけり
軒下や競ふて咲くは蘭の花

北斗句会(北区)
早番のナースのカタコト春めける
小糠雨峠を越えれば遍路宿

見山台新樹会(北区)
鳥帰る一群を又一群を
うつつしいニユース撥ね除け芽ぶく木々

孫の結婚式ばあさん2人仲良く出席留めそで姿の娘に自分の半生思う
花まつり甘茶の香り懐かしむおさなき頃の作法の思い出

八十路来て会話少なき冬の雨
福寿草句会(須磨区)
暮敵や勝負そこそこ桜餅

桃山台クラブ文芸部(垂水区)
立ちつくす狸の置物春うらら
春の兆し微力におぼゆ今朝のジヨグ

月が丘むつみ会(西区)
晴天や庭に色どる杜若
青嵐の人逝きて昭和遠くに

個人
京あるき竹林わたる初夏の風
畑より帰って来たかドアの音

孫の結婚式ばあさん2人仲良く出席留めそで姿の娘に自分の半生思う
花まつり甘茶の香り懐かしむおさなき頃の作法の思い出

大賀 清子
眞木香代子
浜田英美代

花水木おでかけ前のすまし顔
見えますか桜並木の清水川

桂木ひふみ会(北区)
デパートのコスメフロア別世界
削除した数多の悪を嗅ぎつける

川柳
俺トイレ回しといくと妻が云う
夫婦道車イスを押す夫かな

個人
俺の夢コロナに盗まれペシヤンコに
今回で投句も終わりありがとう

お茶して喋り笑って又ね
今日居るよラインが入りチヨット寄る

あしがき
コロナ禍ではありますが、上手にコロナとつきあい、工夫した事業も多くなっていると感じております。

